
死神は嗤わない

亜紀内 司

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死神は嗟わない

【Nコード】

N3180Z

【作者名】

亜紀内 司

【あらすじ】

享年16才。高校1年の春。

俺、紫野崎 恭介は交通事故で死亡したはずだった。しかし、二度と開かないと思っていた俺の目は強制的に彼女にこじ開けられることになる。白髪の少女……死神に。

開幕のサクリファイス（前書き）

サクリファイス【sacrifice】

生贄、犠牲。

開幕のサクリファイス

それは突然の出来事だった。

友人と別れた帰り道、人通りの多い交差点、帰宅ラッシュで行きかう車の排気ガスとタイヤの回る低い音。

そんな中、青信号を確認し、横断歩道を渡っている俺に向かって一台の車が突然飛び込んできたのは。

正直何が起きたのか分からなかった。いや、分かっていたが理解しなかった。

視神経を通して見ていたのは目の前に現われた黒い高級車と眩しいくらいに光るランプ。

遠くでクラクションの音がした気がするが、本当になっっていたかは分からない。

ただただ、その場に突っ立って、ただただありのままの現実を受け止めた。

ああ、そうか。俺は

死ぬんだな。

前頭葉でやっと理解した時は、もう重力に逆らっていた。
痛みすらも感じず、最期に見たのは町の電灯の錆びれた光と、輝
き始めた金星だった。

享年16才。高校1年の春。

俺、紫野崎しののぎ 恭介きょうすけは交通事故で死亡した。

開幕のサクリファイス（後書き）

ちよつと雰囲気を変えて書いてみたいな、と。

カイン（もう一つの小説）とのギャップがあるかもですね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3180z/>

死神は嗤わない

2011年12月11日01時08分発行